記者発表資料

平成２４年５月２２日
山形河川国道事務所

５月２７日（日）８時３０分～

最上川水防演習が開催されます

災害に備えよう！みずから守ろうみんなの地域！

平成２４年５月２７日（日）に**南陽市宮崎、川西町洲島地先の最上川河川敷**において、**「最上川水防演習」**が開催されます。

これは、国民の生命と財産を水害から守るため水防技術の向上及び関係機関の連携を踏まえた水防体制の強化を図るとともに、水防に対する地域の方々の理解と協力を求めることにより水害の未然防止又は軽減に資することを目的に、最上川流域１９市町、山形県、国土交通省東北地方整備局の主催で実施されるもので、当日の参加者及び見学者で**約３，０００人（内水防団員約７００名）を想定**しており、**東日本大震災以降東北管内で行われる演習では、初めての大規模演習**となります。

当日は、第１部の前線に伴う**豪雨を想定した洪水対応演習**、第２部はＭ７．７の**大地震を想定し東日本大震災を踏まえた総合防災訓練**の２部構成で実施します。又、東北６県の代表水防団による「第６回東北水防技術競技大会」も併せて開催されます。

一般の方の見学は大歓迎で入場は無料です。地元水防団や防災関係機関による演習に、是非**来場していただき、ご声援**をお願いいたします。

１．日時　　平成２４年５月２７日（日）　８時３０分～１２時３０分（予定）
２．演習会場　南陽市宮崎・川西町洲島地先　　最上川右岸河川敷
（別紙：会場案内図参照）
３．その他　　予定している演習内容や時間等は、別添プログラムを参照してください。

※マスコミ関係者を対象に、当日８時より受付において訓練概要等を説明します。

＜発表記者会：山形県政記者クラブ、米沢記者倶楽部＞

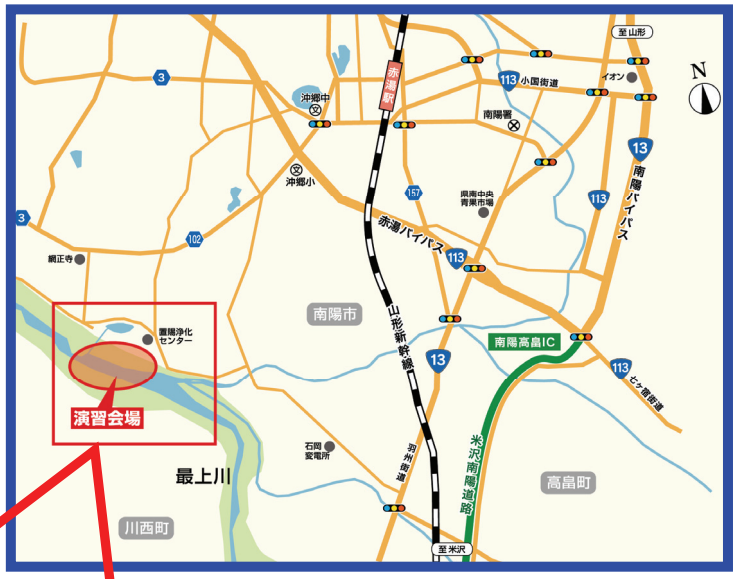
問い合わせ先

国土交通省 東北地方整備局 山形河川国道事務所
山形市成沢西四丁目３－５５（TEL　023-688-8421）
副所長（河川）　高橋　孝男（内線204）
河川管理課長　　田村　公仁（内線331）

（別　紙）

最上川水防演習（５月２７日）　会場案内図

場所：南陽市宮崎、川西町洲島地先　最上川右岸河川敷





会場までの交差点付近には、案内看板を設置しています。
※報道関係の方は来賓・報道関係者駐車場へお願いします。

第二部 の訓練想定について

第二部 訓練想定

「山形県南部を震源とするマグニチュード7.7の地震が発生。南陽市や川西町では震度7を観測し、山形県の広い範囲で震度6弱以上を観測しました。
この地震による山形県全域での被害規模は以下の通りです。
●建物の全半壊：73,401棟　●死傷者：18,111名　●避難者：78,849名
他にも、国道113号などが倒壊家屋などにより通行不能となり、最上川の支川吉野川では土砂崩れによる土砂ダムが形成され住民が孤立するなどの被害が発生しています。」

このような大規模災害を想定し、関係機関や地域住民による訓練が行われます。

第二部で行われる訓練について

TEC-FORCE とは（Technical Emergency Control Force）

大規模な自然災害の発生や発生するおそれがある場合に、応急対策について技術的な支援を行う緊急災害対策派遣隊をTEC-FORCE（テックフォース）といいます。TEC-FORCEの隊員は特定の専門分野に詳しい職員で、災害状況の調査、被害の拡大防止、早期復旧に関する支援などを行います。

東日本大震災では、発災2日後には200名以上が被災現場に入って被害状況を調査しました。この迅速な調査により、早期の応急復旧が可能となりました。また市町村への支援班としても派遣され、被害情報の収集、自衛隊などとの調整、物資や機材の調達など幅広い活動を行いました。




リエゾン とは

リエゾンとは「橋渡し・仲介」を意味する言葉です。東日本大震災発生後、東北地方整備局では被災した市町村や県に災害対策現地情報連絡員としてリエゾンを派遣しました。リエゾンとして派遣された職員は、国と県との調整や法律の解釈にたけており、災害対策対応に追われる自治体職員と協力し、あるいは成り代わって東北地方整備局のみならず各支援機関との調整や、機材・支援物資の調達や取り次ぎなどを行いました。

東日本大震災では、4県と31市町村および自衛隊に、災害発生直後から6月30日までで延べ3,916人のリエゾンが派遣されました。




道路啓開 とは

啓開とは、災害などで通行できなくなった道路を通れるようにすることで、復旧とは異なり、幅や舗装が充分でなくても車が通れるだけのルートを切り開くことを言います。

東日本大震災では、国道４号と東北自動車道から沿岸に伸びる15本のルートを啓開する「くしの歯作戦」が実施されました。3月12日には11ルート、15日は全てのルートが開かれ、警察や自衛隊などの緊急車両の通行が可能になりました。また、医療支援や物資支援も早急に被災地に入ることができるようになりました。



排水ポンプ車 とは

水防活動に排水ポンプ車は欠かすことができません。排水ポンプ車とは、大雨や洪水で排出できなかった水を、搭載したポンプで排出する車両です。

東日本大震災では、津波の水が引かず復旧活動が滞っていた地域が多くあり、全国から集まった排水ポンプ車により排水を行いました。仙台空港周辺では3月17日より25台のポンプ車が24時間体制で排水活動を行いました。これにより、25mプール14,000杯分に相当する約500万㎥の水を3週間で排出し、4月13日の運航再開に寄与しました。

また、震災後の被災地の大雨・大潮対策でも排水ポンプ車が活躍しました。



ご家庭でできる「簡易水防工法」

ごみ袋に水を入れて、土のうの代わりに使用する「簡易水のう工法」



簡易水のう

40リットル程度の容量のごみ袋を二重にして、中に半分程度の水を入れ、口を結びます。
ごみ袋の強度が不足する場合は、重ねる枚数を増やします。出入り口などにすきまなく並べて使用します。



簡易水のうとダンボール箱の併用

水のうを段ボール箱に入れ、これを連結して使用します。水のうだけの場合と比べて頑丈になり、中に詰める水のうを積み重ねて使用することもできます。



最上川水防演習　プログラム

	プログラム	時刻	進行内容	関係機関
	集合・人員報告	8:20	集合・整列・人員報告	
	黙　祷		黙　祷	※東日本大震災をはじめとした災害被災者に対する黙祷
第一部	開会式	8:30	開会宣言	演習副本部長（山形県県土整備部整備推進監）
			国旗掲揚	
			国土交通副大臣挨拶	
			山形県知事挨拶	
			南陽市長挨拶	
			東北地方整備局長挨拶	
			演習本部長訓示	山形県県土整備部長
			水防団宣言	総指揮者（南陽市水防団長）
			退　場	
	洪水対応訓練	9:00	演習想定発表	山形地方気象台、国土交通省
			災害対策本部 設置	
			河川巡視	
			現地対策拠点設置	
			（応急給食訓練開始）	赤十字奉仕団
		9:15	【深掘れ防止対策】	
			◉木流し工	第１中隊
			◉シート張工	第２中隊
		9:35	【漏水防止対策】	
			◉釜段工	第３中隊
			◉月の輪工	第４中隊
		9:55	【法崩れ防止・越水防止対策】	
			◉杭打ち積土のう工	第５中隊
			◉積土のう工	第６中隊、高校生・地域自主防災会による工法体験、陸上自衛隊
			◉特定緊急水防活動（大型土のう積み）	国土交通省
			◉簡易水防	地域自主防災会
			現地視察（激励）	
			水防関係者による工法体験	
			応急給食配布	赤十字奉仕団
		10:15	災害対策本部 解散	
第二部	地震対応訓練	10:15	東北水防技術競技大会	東北６県代表消防団（月の輪工・シート張工）
		10:45	地震発生	（想定）山形県南部を震源とする震度７の地震が発生
		10:46	災害対策本部 設置	国土交通省、県、市、町
		10:46	調査・情報収集（１）	国土交通省東北地方整備局災害対策用ヘリ「みちのく号」
			・被災状況調査	国土交通省、県、市
		10:51	住民による避難訓練	地元小学校、自主防災会、山形県警察本部、地元消防団
			警察による道路規制・誘導	南陽警察署
		11:06	調査・情報収集（２）	国土交通省
			テックフォースの出動	
			リエゾンの出動	
		11:11	道路啓開	国土交通省
		11:19	排水作業訓練	国土交通省
		11:24	自衛隊派遣要請	南陽市長▶山形県知事▶陸上自衛隊
		11:25	緊急輸送訓練	陸上自衛隊、日本赤十字社山形県支部
		11:35	救助・救護訓練	山形県消防防災航空隊、置賜広域行政事務組合消防本部、山形県警察本部、陸上自衛隊、日本赤十字社山形県支部
		11:55	支援物資輸送	災害時救援協定締結企業（8社）、（社）山形県トラック協会
		12:00	災害対策本部 解散	国土交通省、県、市、町
	閉　会　式	12:00	閉会式整列	
			東北水防技術競技大会表彰式	東北地方整備局長
			講　評	東北地方整備局河川部長
			川西町長挨拶	
			国旗降納	
			閉会宣言	演習副本部長（山形県県土整備部整備推進監）
		12:25	退　場	

最上川水防演習のテーマ

「自助・共助・公助」による水害に強い地域づくりを目指して

最上川水防演習が開催される置賜地方の最上川流域は、昭和 42 年８月の「羽越水害」をはじめ度々水害が発生する地域です。恐ろしい水害の被害を最小限にとどめるには、関係する各機関や地元住民の方々が、もしもの時に適切な対応を執ることが重要となります。

最上川水防演習では、「自助・共助・公助」の理念の下に水防・災害への意識を高めていただくため、住民参加による地域一丸となった演習を開催します。

「東日本大震災」を踏まえた関係機関の連携訓練を実施

昨年３月に発生した「東日本大震災」での対応を再現し、いざというときの初動対応の重要性と、国・県・市町、関係機関、地域住民が相互に連携・協働することで、災害に強い地域づくりの実現に繋がることを伝えます。

最上川水防演習のポイント

1 さまざまな災害に対応する「総合防災訓練」

洪水に対応する「水防活動」はもとより、「東日本大震災」を踏まえて地震に対応する訓練も実施します。災害の恐ろしさと防災の重要性を、よりリアルに分りやすく伝えます。

2 住民参加で、地域一丸となって行う「水防演習」

水防団（消防団）や関係機関以外の方々に参加・体験していただくことで、自らできる水防活動や防災の方法を学んでいただきます。

3 「防災展」の開催

災害に関するパネルや、水防工法に用いられる資材に触れるコーナー、関係機関の災害に対する取組みなどを展示します。
◉さまざまな災害対策車両を展示
◉「降雨体験装置」による大雨体験や「土のうづくり、ロープ結び」などの体験コーナーも実施

主催　●最上川流域19市町　●山形県　●国土交通省東北地方整備局
南陽市・川西町・山形市・米沢市・寒河江市・上山市・村山市・長井市・天童市・東根市・山辺町・中山町・河北町・西川町・朝日町・大江町・高畠町・白鷹町・飯豊町

協力　山形地方気象台、陸上自衛隊第６師団司令部、第20普通科連隊、第6施設大隊、第6飛行隊、山形県警察本部、南陽警察署、日本赤十字社山形県支部、(財)山形県消防協会、山形市消防本部、上山市消防本部、天童市消防本部、西村山広域行政事務組合消防本部、村山市消防本部、東根市消防本部、置賜広域行政事務組合消防本部、西置賜行政組合消防本部、東北電力(株)山形支店、東日本電信電話(株)山形支店、マックスバリュ東北(株)、(株)ヤマザワ、(株)ヨークベニマル、南陽市商工会、赤湯温泉旅館協同組合、山形おきたま農業協同組合、川西町商工会、山形県生活協同組合連合会、NPO法人コメリ災害対策センター、(社)山形県トラック協会、(社)東北建設協会、山形県教育委員会、南陽市教育委員会、川西町教育委員会、山形県立米沢工業高等学校、南陽市立沖郷小学校、南陽市立梨郷小学校、川西町立吉島小学校、南陽市地区長連絡協議会、沖郷地区長会、梨郷地区自主防災組織連絡協議会、南陽市社会福祉協議会、南陽市東置賜郡医師会、吉島地区自主防災組織連合会、東沢地区自主防災会、大塚地区自主防災組織連合会、犬川地区自主防災会、玉庭地区自主防災組織連合会、小松地区自主防災連合会、中郡地区自主防災組織連合会、南陽市赤十字奉仕団、川西町赤十字奉仕団

後援　山形新聞・山形放送、読売新聞東京本社山形支局、朝日新聞山形総局、毎日新聞山形支局、産経新聞社山形支局、河北新報社、日本経済新聞社山形支局、時事通信社山形支局、共同通信社山形支局、株式会社米澤新聞社、米沢日報、置賜タイムス、株式会社荘内日報社、日刊工業新聞社山形支局、日刊建設工業新聞社東北支社、日刊建設産業新聞社東北支社、(株)日刊建設通信新聞社東北支社、(株)建設新聞社山形支局、(株)建設新報社、(株)東北建設工業新聞社、ＮＨＫ山形放送局、山形テレビ、株式会社テレビユー山形、さくらんぼテレビ、株式会社ケーブルテレビ山形、株式会社ニューメディア、株式会社エフエム山形、山形コミュニティ放送株式会社、VigoFM78.8MHz、山形県治水協会、山形県砂防協会、(社)建設広報協議会、全国水防管理団体連合会、東北ダム事業促進連絡協議会、東北直轄河川治水期成同盟会連合会、公益社団法人日本河川協会、一般社団法人日本建設機械施行協会東北支部、(財)河川情報センター、一般社団法人山形県建設業協会



羽越豪雨
昭和42年8月






災害に備えよう！　みずから守ろうみんなの地域！



写真提供：山形新聞社

東日本大震災
平成23年3月11日




高めよう！防災意識
5月は水防月間です

それは、明日起こるかもしれない！……災害への備え、大丈夫ですか？

最上川水防演習

プログラム

とき●平成24年5月27日(日)　8:30～12:30
場所◉南陽市宮崎・川西町洲島地先(最上川右岸河川敷)

国土交通省 東北地方整備局
山形河川国道事務所

お問合せ　〒990-9580 山形市成沢西四丁目3-55
TEL.023-688-8421(代表)
www.thr.mlit.go.jp/yamagata/

第一部 の演習想定について

第一部 演習想定

*朝鮮半島から北陸地方を通る梅雨前線が東北地方に伸びており、このため東北地方では前夜から日本海側を中心に強い雨が降っています。特に山形県の村山、置賜地方では降り始めから27日午前６時までの総降水量は150ミリを越えています。今後、前線の北上に伴って、一時間に50ミリほどの非常に激しい雨が降るところもあり、24時間雨量は250ミリ。総雨量は400ミリから500ミリに達する見込みで、国土交通省山形河川国道事務所は、27日午前8時10分に水防警報第１号『準備』を発令しました。。

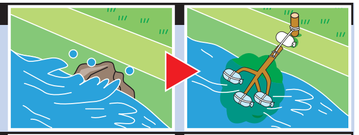
この「羽越豪雨」並みの雨量となる演習想定で、流域の水防団や関係機関の訓練が行われます。

水防工法について

深掘れ（洗掘）対策

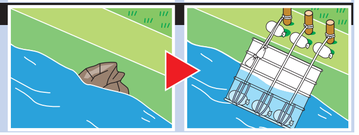
木流し工

木流し工（きながしこう）は、堤防の川側が、激しい水の流れによって堤防斜面が深掘れになった時に行われる工法です。
枝葉の大きく茂った木を用意して、そこに重しとなる土のうを結び付けます。堤防の住居地側に打った杭と木の幹をロープで結び、木の茂った部分がちょうど深掘れ部分に収まるよう、上流に向かって木を流します。
この工法によって深掘れが広がるのを防ぎます。



シート張り工

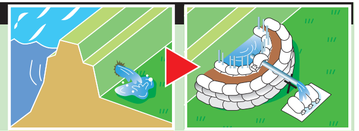
シート張り工（しーとばりこう）は、川側の堤防斜面が崩れはじめたり水が浸透し始めた時に行います。まず、防水シートの上下の端にパイプを通して上部を吊り縄で結びます。さらにシートの形が崩れないようにパイプを通し、それぞれのパイプを吊り縄で固定します。シートの下側にはおもし土のうを付け、それを芯にして一旦シートを巻きます。堤防の住居地側に打った杭に吊り縄を結びつけ、シートを堤防の上から水の中に垂れおろし、さらにあおり止めの重し土のうでシートを押さえて、崩れた箇所が広がるのを防ぎます。



漏水対策

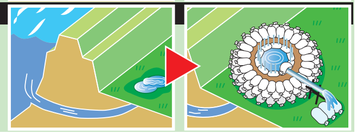
月の輪工

月の輪工（つきのわこう）は、堤防の住居地側の斜面に水がふき出した時に行う工法です。
水がふき出しているところを中心に半円を描くように土のうを並べます。
その外側にも土のうを積み、内側と外側の土のうの間に土を詰めます。
次に、あふれる水を流すためのパイプを取り付けて完成です。
この工法によって水がふき出しているところの水圧を弱めて、ふき出し口の拡大を防ぐことができます。



釜段工

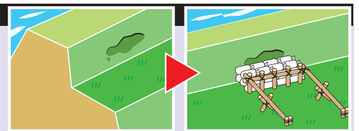
釜段工（かまだんこう）は、堤防の住居地側の平らな場所に水がふき出した場合に行う工法です。
水がふき出したところを中心に、円を描くように土のうを並べます。
その外側にも土のうを並べ、内側と外側の土のうの間に土を詰めます。
次に、あふれる水を流すためのパイプを取り付けて完成です。
この工法によって川の水位と、噴出した水の水位差を少なくすることで水の圧力を弱め、ふき出し口の拡大を防ぐことができます。



堤防斜面の崩れ対策

杭打ち積土のう工

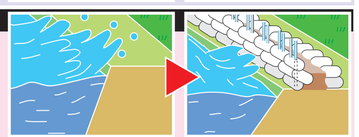
杭打ち積土のう工（くいうちつみどのうこう）は、堤防の住居地側の斜面が崩れそうな時に行う工法です。
崩れそうな箇所の下に、杭を等間隔で打ち込み、この杭の横方向に丸太を渡します。
次に、渡した横方向の丸太に支え木を固定します。
支え木の中間には押さえ杭を、さらに根元には留め杭を打ち込み、支えをより強固にします。最後に土のうを堤防にそって長手積みに積み上げて完成です。
この工法によって、堤防斜面の崩れた部分を支え、被害の拡大を防ぐことができます。



越水対策

積土のう工

積土のう工（つみどのうこう）は、洪水によって水が堤防を越えそうな場合に行う、水防工法の中でも最も基本となる工法です。まず川から50センチから1メートル程のところに、土のうの結び目が下流側になるように並べ、２段目以降は互い違いになるように土のうを積んでいきます。その後ろに３０センチ程間隔を開け、縛り口が川と反対方向になるように土のうを並べ、その間に土を詰めて踏み固めます。前列の土のうが３段以上になる場合は、杭を打ち込みます。
この工法によって、川の水が堤防を越えるのを防ぐことができます。



ご家庭でできる「簡易水防工法」

ポリタンクまたはプランターとレジャーシートを使って、土のうの代わりにする「簡易水防工法」





最上川水防演習会場配置図



テント割当表

- A 水防団席
- B 水防技術競技大会参加者席
- C 訓練参加者席（各機関）
- D 訓練参加者席（町内会）
- E 演習本部席・来賓席
- F 一般席
- G 放送席・進行班

コラム 氾濫から地域を守るために“ショートカット”!?

昭和42年に発生した羽越豪雨による氾濫をきっかけに、吉野川・和田川・最上川の3川が合流した、直下流にあった蛇行箇所の“ショートカット”を行いました。あわせて、旧淤郷堰の改修を実施し、今の淤郷堰があります。
水防演習会場は、丁度“ショートカット”した場所にあたります。

水防団組織図

- 総指揮者：南陽市水防団 1名
- 副指揮者：南陽市水防団 1名

旗手隊長	ラッパ隊	国旗掲揚隊	半鐘隊
南陽市水防団 1名	川西町水防団 8名	高畠町水防団 4名	南陽市水防団 3名

旗手：19市町水防団 19名

体験水防	米沢工業高等学校	30名
体験水防	地域自主防災会	19名
簡易水防	地域自主防災会	20名

第1中隊長	第2中隊長	第3中隊長	第4中隊長	第5中隊長	第6中隊長
天童市水防団 1名	寒河江市水防団 1名	川西町水防団 1名	長井市水防団 1名	米沢市水防団 1名	白鷹町水防団 1名
木流し工	シート張工	釜段工	月の輪工	杭打ち積土のう工	積土のう工
第1小隊 山形市 21名	第1小隊 寒河江市 21名	第1小隊 米沢市 26名	第1小隊 長井市 26名	第1小隊 米沢市 26名	第1小隊 長井市 21名
第2小隊 天童市 21名	第2小隊 河北町 21名	第2小隊 南陽市 26名	第2小隊 白鷹町 26名	第2小隊 南陽市 26名	第2小隊 白鷹町 21名
第3小隊 上山市 21名	第3小隊 西川町 21名	第3小隊 高畠町 26名	第3小隊 飯豊町 26名	第3小隊 高畠町 26名	第3小隊 飯豊町 21名
第4小隊 中山町 21名	第4小隊 朝日町 21名	第4小隊 川西町 26名	第4小隊 村山市 26名	第4小隊 川西町 26名	小隊計 63名
第5小隊 山辺町 21名	第5小隊 大江町 21名	小隊計 104名	第5小隊 東根市 26名	小隊計 104名	
小隊計 105名	小隊計 105名		小隊計 130名		

・対岸へリポート
被災状況調査（国交省みちのく号）
緊急輸送訓練（陸上自衛隊）
Ⓗ

× 消防ヘリ（救助）

最上川水防演習　プログラム

	プログラム	時刻	進行内容	関係機関
	集合・人員報告	8:20	集合・整列・人員報告	
	黙　祷		黙　祷	※東日本大震災をはじめとした災害被災者に対する黙祷
	開会式	8:30	開会宣言	演習副本部長（山形県県土整備部整備推進監）
			国旗掲揚	
			国土交通副大臣挨拶	
			山形県知事挨拶	
			南陽市長挨拶	
			東北地方整備局長挨拶	
			演習本部長訓示	山形県県土整備部長
			水防団宣言	総指揮者（南陽市水防団長）
			退　場	
第一部	洪水対応訓練	9:00	演習想定発表	山形地方気象台、国土交通省
			災害対策本部 設置	
			河川巡視	
			現地対策拠点設置	
			（応急給食訓練開始）	赤十字奉仕団
		9:15	【深掘れ防止対策】	
			◉木流し工	第1中隊
			◉シート張工	第2中隊
		9:35	【漏水防止対策】	
			◉釜段工	第3中隊
			◉月の輪工	第4中隊
		9:55	【法崩れ防止・越水防止対策】	
			◉杭打ち積土のう工	第5中隊
			◉積土のう工	第6中隊、高校生・流域自主防災会による工法体験、陸上自衛隊
			◉特定緊急水防活動（大型土のう積み）	国土交通省
			◉簡易水防	流域自主防災会
			現地視察（激励）	
			水防関係者による工法体験	
			応急給食配布	赤十字奉仕団
		10:15	災害対策本部 解散	
		10:15	東北水防技術競技大会	東北6県代表消防団（月の輪工・シート張工）
第二部	地震対応訓練	10:45	地震発生	〔想定〕山形県南部を震源とする震度7の地震が発生
		10:46	災害対策本部 設置	国土交通省、県、市、町
		10:46	調査・情報収集（1）	国土交通省東北地方整備局災害対策用ヘリ「みちのく号」
			・被災状況調査	国土交通省、県、市
		10:51	住民による避難訓練	地元小学校、自主防災会、山形県警察本部、南陽警察署、地元消防団
			県警による道路規制・誘導	
		11:06	調査・情報収集（2）	国土交通省
			テックフォースの出動	
			支援要請	
		11:11	道路啓開	国土交通省
		11:19	排水作業訓練	国土交通省
		11:24	自衛隊派遣要請	南陽市長▸山形県知事▸陸上自衛隊
		11:25	緊急輸送訓練	陸上自衛隊、日本赤十字社山形県支部
		11:35	救助・救護訓練	山形県消防防災航空隊、置賜広域行政事務組合消防本部、
				山形県警察本部、陸上自衛隊、日本赤十字社山形県支部
		11:55	支援物資輸送	災害時救援協定締結企業〔8社〕、（社）山形県トラック協会
		12:00	災害対策本部 解散	国土交通省、県、市、町
	閉　会　式	12:00	閉会式整列	
			東北水防技術競技大会表彰式	東北地方整備局長
			講　評	東北地方整備局河川部長
			川西町長挨拶	
			国旗降納	
			閉会宣言	演習副本部長（山形県県土整備部整備推進監）
		12:25	退　場	